龍谷學報 第三三〇號

天親の淨土觀—特に十八圓淨說を中心として— 神子上惠龍
宋僧契嵩の五山禪僧に及ぼせる思想的影響 萩須 純道

★

紀元二千六百年記念史學論文集

慧超往五天竺國傳逐錄 羽田 亨
蘇莫遮攷 那波 利貞
毘沙門天信仰の東漸に就いて 宮崎 市定
金の海陵王燕京遷都の一考察 田村 實造
察罕編紀年纂要考 石濱純太郎
界藩山行 鴛淵 一
元の昭宗の年號「宣光」に就いて 神田喜一郎
平郡廣成等の謁見したる崐崙王 杉本直治郎
宋代坊場の民間經營について 曾我部靜雄
後魏刑官考 內田 吟風
滿洲あなぐら考 今西 春秋
金世宗卽位事情の一考察—特に世宗と遼陽渤海人との關係について 外山 軍治
フランク・發郎・拂菻 藤枝 晃
海都の叛いた年次に就て 愛宕 松男
支那水運路の發達とその舟藤田 元春
支那社會の自然的基礎 米倉 二郎
浙江省紹興出土の遺物と其の遺跡 梅原 末治
付法藏傳と雲崗石窟 水野 清一
滿洲熱河省大名城發見の遼代石棺 島田 貞彥
百濟文物の溯源に關する一考察 齊藤 忠

★

說文 第二卷五號

說文假借攷 丁福保
繽紛 蔡鳳圻
元尊勝陁羅尼咒石幢漢字題記考釋 胡小石
中國西城探檢報告書 陸翔譯
文身與同騰的關係 陳志良
中國石器時代底生產技術 陶大鏞
孔子的政治學說 陳汝惠
先秦哲學的時代背境 胡理茲
史記伍子胥傳注 衞聚賢
素紫軒雜鈔 殷塵

雲岡だより（一）

水野 清一

北京もあつし、張家口もあつし、雲岡にきてほつとしたところ、こゝもなか〳〵に照りが烈しい、朝夕は涼しいが、昼のあつさにはいさゝか閉口してゐます。今年は滿鐵の調査隊がボーリングをやつてゐますので、二六時中カタ〳〵と機械の音、電設の人々が大勢仕事してゐるので、いかにも建設期に入つたやうな觀もあります。それはよく眼でせうか、見物人は少い、それに內地からの人はさすがに少いやうです今年はいよ〳〵曇曜の五窟にとりかゝります。三人がゝりでいま基準をつけてゐる最中です。これだけで二週間かかりました。これははじめにはやらなかつたことです、だん〳〵餘分のことが加つてきます、それに曇曜五窟の無規則さといつたら全く言語同斷です、この石窟の作者は建築家にあらず、彫刻家なりとつく〴〵おもひます、それに全く佛像だけつくつて何もつくりだしてないことに驚いてゐます、なかなかのしつかりものです、でも大きいだけ愉快です。（七月五日付森鹿三氏宛通信）